

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果の分析と今後の方向について

国語 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力

全体的に見ると「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3つの領域のうち、特に「書くこと」に弱さが見られます。その中でも最も正答率が低いのは以下の問題です。この問題の本校の正答率は、全国や県平均を下回り約20%です。

誤答の仕方を見てみると、自分の考えを書くことはできても「条件に合わせて書く」ことが難しいようです。文章から語句や文を引用して書くこと、そして、引用する部分をかぎ(「」)でくくるなどの書き表し方が十分に身に付いていないことが考えられます。また、無回答率が全国や県では５％程度であるのに対し、本校では９％程度であることから、書くことへの抵抗感が大きいとも考えられます。文章を最後まで書ききる粘り強さも身に付ける必要があります。

問題より一部抜粋

【条件】

- 「集めた情報」の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
- ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎっこ()でくくること。
- ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
- 百四十文字以内にまとめて書くこと。

※上の原稿用紙は下書き用のので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙に書きますよ。

※◆の印から横書きで書きましょう。どちらうで行を変えないで、続けて書きましょう。

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か
「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そでもすずしく過ごすことができそうです。

また、

5 終わりに
これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをささげるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

(参考文けん)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやる色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゆうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

※このように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。
 「花山さんの『集めた情報』をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えを……に入る内容を……」

【学校では】

他の問題の回答状況を見てみると、「情報の扱い方に関する事項」についての理解はある程度できていることがわかります。ところが、いざ自分が文章を書くとなると一気に正答率が下がります。理解はしているが、その知識を自分の技として使うことができていない、ということになります。引用の仕方が分からない、引用する文章の書き方がわからない、ということも考えられます。説明文の「読むこと」の学習で学んだことを次につながる「書くこと」の学習に生かすことができるようにするため、単元を通して身に付けさせたい力を明確にし、子どもたちが目的意識をもって学習できるような授業を目指します。

【家庭では】

毎日の宿題として行っているのは、基礎基本を身に付けるための漢字や計算などのドリル学習がほとんどです。当たり前ですが、そもそも書く機会がなくては文章を書く力が身に付くことはありません。まずは、書く機会を増やしましょう。自主学習として、日記、観察文、調べ学習、読書感想文などに、積極的に取り組みましょう。なるべく低学年のうちから慣れておくと、書くことへの抵抗感が少なくなります。

句読点(、)やかぎ(「」)、「そして」「次に」などの接続語などを適切に使うことなど、基本的な書き方に気を付けて書けるように見届けてくださると、なおよいです。最初は、お子さんの書いた文章に保護者の方が一言感想を付け加えていただくなどして、親子で書く活動を楽しんで行っていただけたらと思います。

算数

「数と計算」の学習について

「2つの分数 $7/3$ と $7/4$ のどちらが大きいか」を判断し理由を答える問題や、「数直線上で $5/3$ を表す目盛りから1を表す目盛りを選ぶ」問題で、不正解が多くありました。このことから、分数が表す量の理解に難しさを感じていると考えます。生活の中でも、整数や小数を感じる機会に比べ、分数を感じる機会が少ないことも要因として考えられます。

【学校では】

分数について、どんな量なのかを図や数直線で捉えられるようにすることを大切にしていきます。また、どうしてそうなるのかの根拠を言葉や図で表現することも大切にしていきます。分数に限らず、小数や整数などの数についても、数量がどれくらいの量なのかを体験を通して考えたり、日常で使う場面と結びつけたりしながら、数の感覚を養っていきけるようにしていきます。

【家庭では】

家庭学習の際には、問題文に出てくる数量を数直線や図に表すなど、数のイメージをもちながら計算をしているとよいです。また、ピザやケーキを分けるなど、生活の中にある分数を見つけてみることもよいと思います。

「図形」の学習について

直方体を構成する長方形の面の縦と横の長さを答える問題では、正答が約半数の児童にとどまりました。平面の図から、立体としてイメージすることに難しさを感じていると考えられます。また、直方体の体積に関わる問題でも、正答が半分以下でした。体積を求める公式はわかっている、なぜそのような公式で求めることができるのかという、体積の意味につながる部分の理解が不十分であると考えられます。

【学校では】

今後も図形の学習では、具体物を使って問題に取り組むことを積極的に取り入れていきます。立体の模型を観察したり、操作したりしながら、立体のイメージを捉えられるようにしていきます。デジタル機器を効果的に使いながらも、実際に目で見ることや、手で動かしてみることなども大切にしていきます。

【家庭では】

家庭学習で図形の問題に取り組む際に、実際にその図形をかきながら問題に取り組んだり、紙に書いて切り取って考えたりして、具体的な図形が思い描けるようにしていただけるとよいと思います。また、身の周りにある形がどんな形であるか、図形の特徴をもとに考えられるとよいです。

「変化と関係」の学習について

カメ14匹が全体の20%の時の全体の量を求める問題では、正答が半数を下回るとともに、無回答の児童も多くいました。基準となる量が何で、どのように百分率の数が求められているかなど、割合についての正しい理解の不足や、割合そのものに苦手意識があると考えられます。

【学校では】

具体物を使いながら、量と割合を関連付けながら、視覚的に考えられる機会を充実させていきます。また、身近にある割合（パーセント）などを紹介し、割合をより身近に考えられるようにしていきます。

【家庭では】

身近なものの中で、何%引きがいくらになるのか、何%増量がどれだけの量になっているかを考えてみるのも有効かと思えます。

「データの活用」の学習について

表、帯グラフなど、複数のデータが問題の中で示されていました。右図のように、アンケートの結果を表にまとめたものから、全員のアンケートが整理されていない学級を選び、理由を答える問題がありました。この問題では、正しく理由を説明できる児童は半数を大きく下回っていました。複数の資料を結びつけて考える力や、データを鵜呑みにするのではなく批判的に見る力を付けていく必要があると考えられます。

【学校では】

データの活用の授業では、自分の考えを相手に伝える活動を積極的に取り入れていきます。その際に、「〇〇といえる。なぜならば・・・」と、自分の主張とその理由を数値やデータを用いて述べることを大切にしていきます。その中で、主張が正しいといえるのかなど、批判的に考察する機会も設けていきます。また、算数だけでなく、社会の授業などでも、資料の中の数値を正しく捉え、考えをつくれる児童を目指します。係活動などでも、表やグラフなどを効果的に活用するなど、日々の生活の中からデータに触れていけるようにしていきます。

【家庭では】

様々なグラフに触れる機会を多くできるとよいです。自主学習などで、調べたことを表やグラフにまとめたり、そのことから考えたことをまとめたりできるとよいです。また、TVや新聞、雑誌等の中で示されるグラフから、どんなことが考えられるかを家庭の中で話すなど、データを見る目を養っていけるとよいです。

表1 1年生の各学級の人数 (人)

学級	1組	2組	3組	合計
人数	29	30	28	87

さくらさんたちは、1年生にアンケートをとり、どの遊びに参加するかを1つ選んでもらいました。



アンケートは1年生全員から集め、無回答はありませんでした。

下の表2は、集めたアンケートを整理したものです。

表2 1年生が選んだ遊び (人)

遊び \ 学級	1組	2組	3組	合計
ボール遊び	9	14	8	31
おにごっこ	8	7	10	25
昔遊び	12	6	10	28
合計	29	27	28	84

児童質問紙

よさ① 学校生活・人間関係は良好である

「学校に行くのは楽しいと思いますか。」という設問に対して、８８％以上の児童が肯定的な回答をしています。また、「友達関係に満足していますか。」という設問に対しても８７％以上の児童が肯定的な回答をしていました。これまで、コロナ禍によって、学校生活では他者とのかわりや活動に制限がかかり、仲間と競い合ったり、学び合ったりして学習したり、協力して何かをやり遂げたりする経験を十分に行うことができませんでした。しかし、制限が無くなり、学校の活動を再び見直すことで「学校でしか味わえない楽しさ」や「友達と楽しく過ごす方法」などを知ることができたのだと思います。今後も学校では、人間関係のスキルトレーニングや道徳教育などを充実させ、一人一人のスキルやモラルを高めるとともに、仲間と一緒に過ごす喜びや楽しさ、仲間と共に困難を乗り越えた達成感などを味わえる活動を仕組み、児童が成長できるように努めていきます。

よさ② 思いやり・社会性が高い傾向である

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という設問や「人が困っているときは、進んで助けていますか。」という設問に対して９５％を超える児童が肯定的な回答をしています。「誰かの役に立つ人間になりたい。」という思いは、未来の自分のために努力をする大きな理由となります。また、「自分さえよければいい。」という自己中心的な価値観に囚われず、誰かの役に立つことを自身の喜びとすることは、自己肯定感や自己有用感を高めていくことにも非常に効果的です。ご家庭において、人は他者とのつながりの中にいることや、誰もが社会のかかわりの中で支えられていることをお子さんに話していただいているからこそだと思います。本校でも、児童に自身の行動で誰かをしあわせにできることや、巡り巡って自分にも返ってくるものの価値などを語り、誰かの役に立つ人間になりたいと願う児童を支えていけるようにします。

しかし、学校では「〇〇してあげよう」というようなよかれと思ってとった行動が、相手にとっては迷惑でなってしまう、人間関係のトラブルの原因となってしまうということが実際にあります。学校や社会には多様な人がいて、物事の受け取り方も多様であるということや、どのように行動したら自分にとっても相手にとってもよかったかということを繰り返し話していく必要も感じています。

よさ③ ICT 活用能力が高い

「ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーションを作成することができると思いますか。」という設問においては７３％の児童が肯定的な回答をしています。また、「インターネットを使って情報を収集することができると思いますか。」という設問では８４％の児童が肯定的な回答をしました。ICT 機器を活用して学習する経験を重ねたことで、自身で ICT 機器を活用して学習を進めていくことができるようになっていくことが分かります。

しかし、一方で「ICT 機器で文章を作成することができますか。」という設問や、「ICT 機器を使って情報を整理することができると思いますか。」という設問の回答は低い実態があります。自分の力を高めるために、ICT 機器を活用して考えを深めたり、表現を工夫したりする学習を自分で考え、自分から取り組むことができるようサポートをしていきます。

また、スマートフォンやタブレット等で SNS や動画を視聴している時間について、本校は岐阜県や全国と比較しても非常に高い数値となっています。ご家庭におかれましても、SNS や動画視聴について、お子さんの将来のために約束の確認やルールづくりをお願いします。

課題① 学習の有用感が低い

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という設問に対して本校の児童の肯定的な回答は７７％に留まり、全国の値よりも１３ポイント程度低くなっています。算数においては、国語ほどの差は見られませんが、全国の数よりも低い結果となっています。児童がなぜ学ぶのか、将来どう役立つのかといった学習する意味について理解できるようにしていく必要があると感じます。意味が分かることで目的をもつことができ、主体的に学んでいけるようにしたいと思います。また、学習というものは「できるようになってから意味が分かる」という一面ももっています。続けていくうちに意味が見つかることも多々あります。児童に叶えたい夢ができたときに、それを実現させる力をもっていられるように、今の学習の大切さを伝えていきたいです。ご家庭におかれましても、お時間のあるときには、お子さんの学習の様子や生活の様子について、確認していただき、その意味を話していただきますようお願いいたします。